

専門看護師・認定看護師 NEWS

Vol.50

2023年11月発行



独立行政法人 国立病院機構
福岡東医療センター

がん放射線療法看護認定看護師

まつしょう みきこ
松莊 美樹子

今回は「緩和的放射線治療」（緩和照射）についてご紹介します。

放射線治療には大きく分けて、がんを治すための「根治照射」と、がんによる症状を和らげる「緩和照射」の2つがあります。緩和照射は、痛みをはじめとする身体症状の改善やQOL（生活の質）の維持・向上を主な目的としています。症状を引き起こしているがん放射線をあてることで、進行を抑える、または縮小させ、辛い自覚症状の緩和が期待されます。

緩和照射が有効な代表的な疾患と症状

転移性骨腫瘍



夜中に痛みで目が覚める
ことがなくなりました。



治療効果の多くは2週間程度して表れてきます。
鎮痛剤もきちんと内服し痛みのコントロールを
図りましょう。

転移性脳腫瘍



頭痛やふらつきが無く
なったよ。



頭蓋骨内の圧力が高まり頭痛を催したり
腫瘍が発生した部位の障害により、運動失調、
失語などの症状が表れます。

脊髄圧迫



足のしびれが軽くなりました。



背骨に転移したがんが神経を圧迫し、痛みや
手足のしびれ等の症状を引き起こします。
緊急照射の対象となることもあります。

進行乳がん皮膚潰瘍



出血が減って、見た目も
きれいになってきました。



放射線は腫瘍の縮小、止血、浸出液の減少にも
効果を発揮し、整容性にも優れています。

病気の状態や患者様のご希望などを伺い、安心して最適な治療を受けていただけるよう、放射線治療部スタッフがサポートさせていただきます。治療内容や副作用について、ご理解・ご納得いただいたうえで治療を進めていきます。不安や疑問等はスタッフへご遠慮なくお伝え下さい。

